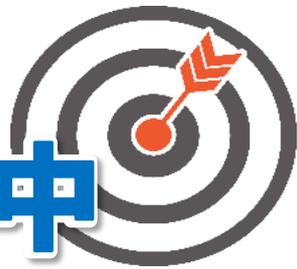


2023 ズバリ! 的中



古文

京都大学

本文の一部がズバリ的中 設問も2つの中

入試問題

前期日程 文系学部
三 問一、問三

河合塾

高3 II期
高3ONE WEX京大 国語テスト
第五講 問二、問三

三

次の文を読んで、後の問に答えよ。(50点)

冬もやうやうふかくなりにけるに、暮れ行く空のけしきすまじく、雪もちらちら打ちしが、とかくする程に、日もすてに暮れはてて、鳥羽玉の團たまごさへいとどうとまし。かくて夜もふけ行くままだに、夜さむ身にしみわたり、しばしもいねやうで、丑みつばかりになりぬるに、鐘のこゑもきこえず、鶯の音もせで、なにとなくしつかになるやうに寛あましが、いつあくるともなく、窓のしらみあひける程に、家うちにありしわらははよびおこして、閨まへの戸あけさせれば、夜のまに雪ゆきいとおもしろうふりつみて、庭の草木も花さき、にはかに春来るころし、四の山の端もみな白妙しらたへになりて、人間世界、さながら天上の白玉京しらたまぎとあやまるる折しも、あたりちかき池の水鳥のこゑもこゑになくも、程なればはきこゆ。さこそ波のうさむからめと、それさへ哀れを添へて、さても心あらん友もがなと、人ゆかり思ひし折ふし、いつも問ひかはす人のものとよりとて、文もて来ぬ。いそぎ開きて見れば、「めづらしき雪に待てる。いかが見給なやらん。さてはご雪に、御起きふしも寤あま来なく思ひ侍る」とおんかきけるにつけて、かの兼好が「雪のいとおもしろう降りたりしあした、人のがりがいふべき事ありて文やるとて、雪の事なともいはざりしに、この雪ゆきいかに見ると、筆ふでいはぬとて、口惜くしき事といひこせし事をふと思ひ出で、是こゝはあなたよりかく氣をつけていひこせしを、こなたより返事なくば、うらみやせんと思ひしままに、使ひしはまたせて返事がきて奥に。」

空にふる雪はこすゑの花なれやちるかさくかどあやまたれける
とかき、「ゆきゆきはひとへにさびくへらし侍る。思ふどちいひあはせてこられよかし。それこそ誠の志と思ふべけれ」といひやりけり。かくてやや日たくる程になりて、門をたたく音しけり。人してあきさすれば、かの文をせし人、例の人々伴なひて来にけり。形のごとく主設けて、翁うれしく、さむさ忘れてにじり出で、かたみに語りあひしが、酒燗さかめて出だしけるに、衆客もみな酔をすすめて、清談せいだんいとこころよく見えし。翁。

① あるじする心ばかりはこゆるぎのいそぎありくにおとらめや君
*「われら事、足らねば、御為ごために再もとめてありくことにはかなひ侍らねども、心ばかりはそれにもおとり申し候ふまじ」

次の文は、江戸時代の儒学者が記したもので、ある雪の朝、筆者（翁）が友人から届いた手紙に返事を書く場面からはじまる。これを読んで、後の問に答えよ。

使ひしは待たせて返事書きて、奥に、

空に降る雪はこすゑの花なれや散るか咲くかどあやまたれける

と書きて、さて、「今日はひとへにさびしく暮らし侍る。思ふどち言ひあはせて来られよかし。」

それこそ誠の志と思ふべけれ」と言ひやりけり。

かくてやや日たくる程になりて、門をたたく音しけり。人して開けさせれば、かの文をせし人、例の人々ともなひて来にけり。形のごとくあるどまうけして、翁うれしく、寒さ忘れてにじり出で、かたみに語りあひしが、酒あたたためて出だしけるに、衆客もみな酔をすすめて、清談いとこころよく見えし。翁。

「A あるじする心ばかりはこゆるぎのいそぎありくにおとらめや君

われら事、足立ち侍らねば、御ために有あまもとめてありくことはかなひ侍らねども、心ばかりはそれにもおとり申し候ふまじ」と戯はなれごとなど言ひて程を経けるに、衆客、「今日の雪には、翁の漢詩まことなくてやはあるべき」とて、翁に簡を授けしに、翁、「いやとよ、昔は雪月花の折にあへば、

